

大津まちおこし大学

栄光の「からいも大学」

「皆さんは『からいも大学』という名前に聞き覚えはありますか？」

「まちづくりは人づくりから」をテーマにした「人づくりまちづくり事業」として「からいも大学」は平成5年度に始まりました。町民が関心・興味のあるテーマに対して「学部」を作って自主的に活動するという、特徴的な全国的にも珍しい事業でした。平成14年度には、「地域づくり総務大臣表彰」を受賞し、多いときは、全体で（7学部）150人近くの町民の参加がありました。提言から実践活動へ移行する中、活動の難しさから参加者が減少し、事業は実施されていませんでした（平成

19年までで延べ654人の参加がありました。

新「人づくりまちづくり事業」を

町民が活動できる素晴らしい事業をこのまま眠らせておくにはもったいない。『より良い町民の活動の場を作れないだろうか？』より多くの町民が『まちづくり』に参加できる事業にできないだろうか？』という思いから、平成19年度「人づくりまちづくり事業推進委員会」が立ち上がりました。各分野の団体の代表や公募委員、学識経験者などで構成された19人の委員で「からいも大学の良かった点や問題点」「先進地事例の検討」「ワークショップ形式での検討」など全9回にわた

る検討を重ねた結果、「からいも大学」にかわる新しい人づくりまちづくり事業「大津まちおこし大学」が誕生したのです。

そして：平成20年度

「大津まちおこし大学」開校

「大津まちおこし大学」は、「次世代のまちづくりを担う人材（リーダー）の育成」、「まちづくりを行うグループの育成」、「まちづくりや地域づくり団体の交流、支援」などを理念とし、たくさんの方の仲間と出会い、交流を行って「大津大好き人間」を作るために、平成20年7月に開校しました。

「大津まちおこし大学」には2つの学部があります。

1つ目は、「人づくり学部」です。この学部は、学部のテーマに沿って活動し、町への提言・提案をします。今年度は3学科、14人の学生が活動しています。

2つ目は、「まちづくり学部」で、町内で現在活動している「まちづくりに取り組んでいるグループや団体」に、各グループや団体間の交流や情報交換を行ってもらう学部です。基本的には、今までどおりの自主的な活動を継続してもらい、年に数回、他のグループ・団体との交流事業に参加してもらうことで「連携・交流」を深めていきます。現在11のグループ・団体が参加しています。

【参照：大学イメージ図】

「大津まちおこし大学」の目指すものは

「大津まちおこし大学」は、今年度始まったばかりの事業です。まだまだ改善するところがあると思いますが、町では参加者が多くなることを

願っています。今後の「大学」をより良くするために「人づくりまちづくり事業推進委員会」の委員長で、今は運営委員会の委員長である熊本大学の畑中寛さんに「大学」について話を聞いてみました。

I n t e r v i e w

「交流、連携」がまちおこしのキーワード

私は、「大津まちおこし大学」で重要なことは「交流、連携」と考えています。人づくり学部内での学科を越えた「交流」、まちづくり学部内での団体間の「交流」「連携」、更には2つの学部を合わせた、大学内全体での「交流」「連携」が予想以上の効果を生むと思います。例えば、まちづくり学部でいうなら、団体ごとに「年次計画」を作成して、情報交換（交流）をすることで、同じようなイベントを開催するときに、「合同開催」や「団体間の相互協力」が取れるようになると思います。今後は、更に「交流、連携」を強化していくために、「まちづくり情報誌の発刊」や「まちづくり人材バンクの開設」などを行っていきたいと思っています。

「人づくり」の特効薬はない

まちづくりには「人づくり」も「団体の支援」も大切と考えます。そういう意味で、個人と団体を同時に対象として取り組むこの「大津まちおこし大学」は、県内でも素晴らしい事業だと思っています。私は、この「大学」が将来、参加メンバーが固定化せずに、新しい人や若い人が気軽に参加できるように、な、「世代」「性別」「職種」を超えた「異業種交流活動」の場になるように期待しています。

「人づくり」や「まちづくり」に『特効薬』はありません。この「大津まちおこし大学」が、大津町をより住み良いまちにする



熊本大学政策創造研究教育センター
コーディネーター
畑中 寛さん

大津まちおこし大学イメージ図（平成20年9月現在）

